

命を救うこととしての「やさしい日本語」

水野義道（京都工芸繊維大学） mizuno@kit.jp

「減災のための『やさしい日本語』研究会」では、地震等の災害時に外国人を対象として「やさしい日本語」を用いた情報を提供するための活動を行っています。この活動の出発点は1995年に発生した阪神・淡路大震災で、被災した外国人にとって情報を得ることが難しく、適切な避難行動を取ることができないケースがあったということから始まっています。地震発生直後から公的機関やボランティア団体によって外国語による情報提供が行われましたが、全ての外国人の母語で情報を提供することは難しく、外国語による情報提供の問題点を補う一つの方法として「やさしい日本語」による情報提供を行うことが有効ではないかと考えられました。阪神・淡路大震災の外国人に対する情報提供の状況についての調査・研究は大阪大学を中心に行われましたが（注1）、その後、活動の中心を弘前大学に移して現在に至っています（注2）。

「やさしい日本語」に関する研究会の活動としては、最初に阪神・淡路大震災発生後にラジオ放送で行われた情報提供の内容を整理した結果を元に、「やさしい日本語」による放送用案文を作成し、避難所等で使用された掲示物の調査を元に「やさしい日本語」を使用した掲示物の雛形を作成しました。これらは現在、弘前大学のホームページで見ることができます（注3）。次に「やさしい日本語」によって作成された案文が外国人にどの程度理解されるかを確認するために、日本に滞在する留学生およびラテンアメリカ諸国から来日し日本に居住する日系人を対象にして検証実験を行いました。留学生を対象とした検証実験は2005年に青森県弘前市で行われ（注4）、日系人を対象とした検証実験は2007年と2009年にそれぞれ群馬県伊勢崎市と静岡県浜松市で行われました。これらの検証実験においては「やさしい日本語」による案文の有効性が確認されました。また、これらの検証実験では「やさしい日本語」による案文を音声で協力者に示して理解の程度を調査しており、その際使用する音声情報である案文の読み上げ速度やポーズなどについての研究を行っています。

その後、「やさしい日本語」による案文作成を支援するコンピュータソフトを作成する準備作業として「地震時の緊急コメント」（注5）を「やさしい日本語」で表現するための検討を行い（注6）、それを元にコンピュータソフト「やんしす」（注7）を作成しました。「やんしす」は災害発生時にネットにつながっていなくても使用できるようにダウンロードして使用するソフトです。2017年からはAndroidアプリ版が提供されています。

最後に、研究会のメンバーが協力した「やさしい日本語」の使用事例として、次のものを紹介させていただきます。

（1）『外国人のための防災ガイドブック』（2010年、京都府国際センター編）（注8）

外国人が事前に地震等の災害の情報を得ていない状態で、災害が発生してから災

害そのものの情報や避難情報を聞いて適切に理解し、迅速な避難行動を行うことは難しいと考えられます。このようなパンフレット等を利用して事前に災害に関する情報を得て、避難訓練を経験しておくことが望まれます。

(2) 東日本大震災発生後の情報提供 (2011 年) (注 9)

NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会が設置した東北地方太平洋沖地震多言語支援センターと連携して、web サイトを通じて「やさしい日本語」による災害関連情報の提供を行いました。

(3) 緊急地震速報・津波警報の多言語辞書 (2015 年気象庁・内閣府・観光庁) (注 10)

情報配信事業者等による緊急地震速報の多言語対応を促進することを目的として作成されたもので、語彙と表現を対訳形式で表示しています。対象言語として英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語とともに「やさしい日本語」が準備されています。

注 1 : 真田信治 (1996) 『『緊急時言語対策』の研究について』『言語』25-1, pp.94-99

注 2 : 「減災のための『やさしい日本語』」(弘前大学人文学部社会言語学研究室)

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>

注 3 : 弘前大学人文学部社会言語学研究室・減災のための「やさしい日本語」研究会 (2013) 「増補版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル」(初版の発行は 1999 年)

注 4 : 「やさしい日本語」研究会 (2007) 『『やさしい日本語』が外国人の命を救う』

平成 18-20 年度科研費報告書, 基盤研究(B)「災害時の外国人のための『やさしい日本語』と社会的ニーズへの言語学的手法の適用」, 平成 18-19 年度弘前大学人文学部学部長裁量経費「民学官協働による弘前市をモデルにした災害時の情報伝達の研究」研究代表者 佐藤和之

注 5 : 現在の名称「大地震時の放送による行動指示情報 (緊急コメント)」

廣井脩ほか「災害放送研究プロジェクト」

http://www.hiroi.iii.u-tokyo.ac.jp/index-katudo-kyodo.kenkyu-saigai_hoso-shoki_comment_honbun02.htm

注 6 : 佐藤和之 (2009) 『『やさしい日本語』の構造』平成 18-20 年度科研費報告書, 基盤研究(B)「災害時の外国人のための『やさしい日本語』と社会的ニーズへの言語学的手法の適用」

注 7 : 「やんしす」は「YAsashii Nihongo Slen System」の略称

<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>

注 8 : 現在のバージョンは 2016 年となっていますが、「やさしい日本語」版は 2010 年版と同じです。<http://www.kpic.or.jp/njfumin/disasterhandbook.html>

注 9 : http://eqinfojp.net/?category_name=easyjapanese

注 10 : <http://www.data.jma.go.jp/svd/egev/data/tagengo/tagengo.html>

